

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	照陽会 笠井病院		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	平成30年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族と信頼関係を築けるよう努め円滑な関係が保てるようにしている。利用者一人ひとりが安心して自分らしく楽しく過ごす事ができる様に努めている。また、誰でもが気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに努めている。敷地内には、同一法人の運営している医療機関があるため、連携を密に取ることができ、緊急時にも迅速に対応できる体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、協力病院や通所リハビリ事業所を併設し、相互の交流や連携、緊急時の医療体制を整えている。“利用者の意志や人格を尊重し安心・安全な生活を提供いたします”という理念や年度ごとの目標を掲げ、日々のケアを実践している。リビングダイニングには、利用者とともに飾り付けた季節の作品や行事のアルバムが置かれ、家族や来客の話題のきっかけになっている。誕生会や季節のイベントの際には、手作りケーキや行事食を利用者と職員が協力して調理し、思い出に残る食事の機会となっている。事業所には、近隣住民やボランティアの訪問も多く、地域の祭りやオープンガーデンのお宅に出かけるなど、利用者が住み慣れた地域で生活し続けるための支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示し、職員間で共有し日々の実践につなげられるように努めている。	事業所は、地域密着型サービスの意義や役割を理解し、全職員で検討した理念を掲げ、共有を図り、実践に努めている。今年度の目標として“利用者が安心して穏やかに過ごせるよう一人ひとりの楽しみのある生活を支援する”を掲げ、そのつど、支援の振り返りの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員やボランティア、近隣の理美容師の訪問がある。地元の祭りに参加したり、ホームの行事に参加してもらい交流の機会を持つようになっている。	事業所は、ボランティアや近隣の住民の来訪が多く、併設事業所の利用者が、行事に参加することもある。利用者は、地域の祭りやオープンガーデンのお宅に外出し、地域住民と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事には、地域の住民やボランティアの方に参加していただく事で交流を図っている。随時、事業所の見学も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、サービスの実施状況、行事報告、利用者の現状報告を行っている。参加者からいただいた提案は日々の運営に活かせるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所は日頃の取り組み状況を報告している。委員からは地域の情報を得ているが、老人会や婦人会、ボランティア、地域の警察・消防等、多岐に渡るメンバーによる話し合いの機会までには至っていない。	運営推進会議の意義を伝え、具体的な課題や事例検討を話し合う機会とし、双方向的な会議を通して、事業所が地域の福祉拠点となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに市町村担当者に報告、連絡、相談を行い助言していただいている。また、運営推進会議にも参加していただき、提案や助言をいただいている。	毎月、職員は、市担当窓口を訪問し、申請書や実績報告書を提出している。その際、事業所の取り組みや運営について相談している。地域包括センターが開催する研修会や連携事業に参加し、協働関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を行い、安全で自由な暮らしの支援を行っている。日中は見守りを徹底し、施錠を行わず、玄関開閉時はドアチャイムで確認ができるようにし、拘束のないケアに取り組んでいる。	事業所は、身体拘束排除宣言を掲げている。職員は、日頃から身体拘束の弊害を話し合い、“どんなことがあっても拘束はしない”という思いのもと、支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、言葉遣いや、対応等に気をつけている。また、職員各々のケアの振り返りを行い確認する機会を持つようにしている。高齢者虐待防止関係の研修を行い、虐待の起こらない現場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で開催している権利擁護や成年後見制度の研修会に参加している。現在、該当者はいないが必要時対応できるように努めた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了時には、十分な説明を行い同意を得ている。不安や疑問点は、その都度お聞きし、理解、納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情などから思いを把握できるよう努めている。また、家族から意見や要望を気軽に話してもらえるような雰囲気作りを心がけている。	職員は、利用者に寄り添い、思いや要望の把握に努めている。家族の来訪時には、事業所に意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は、職員間で共有しつつ、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から現場の職員とコミュニケーションを図り、職員から提案された意見に耳を傾け、検討し運営に反映させている。	事業所は、ミーティングや勉強会の際に、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、管理者は、日頃の業務を通じて、職員の意向を把握するよう努めている。職員の提案を検討し、運営面に反映することにより、職員の意欲向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員とコミュニケーションをとり、個々の努力や実績等を把握し、やりがいをもちながら働けるよう現場の環境や条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や現場の職員と日頃からコミュニケーションを図り、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修参加への支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会があり、相互訪問や情報交換を行い、日々のケアやサービスの質が向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安を聞く事で、困り事や不安を少しでも除けるよう努めている。また、見学も随時受け付けている。本人や家族に納得していただいた上でサービスを導入できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えや要望を聞き、相手の立場にたって考え、どのような対応ができるか話し合いを行っている。電話での相談も随時行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを受け止め、お聞きした情報や要望をもとに支援を行っている。必要に応じて他のサービスの調整を行い、安心、納得した上で利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に過ごしていく中で、喜怒哀楽を共にすることで、互いの気持ちを伝え合っている。本人のできる事はしていただき、できない事は一緒にする事で、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日頃の状況を伝え情報交換を行っている。本人が不安を感じている時には、家族と協力して支援を行えるようにし、家族間においても良好な関係が保たれるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や近隣、友人などの来訪がある。日頃から来訪しやすくと感じていただけるような雰囲気作りに努めている。	事業所では、利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係の把握に努めている。職員は、自宅への帰宅や墓参り、馴染みの理・美容院の利用を支援している。事業所への知人・友人の来訪も多く、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、利用者同士が良好な関係を保てるよう、職員が調整役となって支援している。状態変化時には席替えを行い、トラブルがないよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず入院に至った利用者には、面会を行ったり、家族や医療機関に経過を尋ねたりしている。家族からの相談にも対応し経過を見守るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活での関わりから、本人や家族の思いをくみ取れるようにしている。常に話し合いを行い、思いや意向の把握に努め、本人本意に検討している。	職員は、日ごろの利用者との関わりを通じて、言葉や些細な表情の変化から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の状況に応じて洗濯たたみや野菜の皮むき、電子オルガンの演奏など本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で気づいた言動を記録している。家族や担当されていた介護支援専門員より情報提供を受け、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の様子やレクリエーションなどの様子から、心身状態や能力を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、本人や家族からの意見や情報を得るように努めている。出された意見や情報は介護計画書に反映し、利用者の状態に応じて介護計画書を作成している。	事業所では、利用者や家族の意見や要望を大切にしたいうえで、ミーティングや担当者会議を開催し、介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、6か月に1回は介護計画を見直している。利用者の状態に応じて、柔軟な見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに、日頃の様子や変化を記録し、職員間で共有し、状況に応じた対応ができるよう支援を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望を聞き、状況に応じて買い物介助や歯科往診依頼、訪問理容など、必要と思われる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民を行事に招待し交流を図っている。また、運営推進会議に民生委員の方に出席していただく事で連携をとっている。散髪は、地域の美容師さんに訪問していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。事業所では週3回医師の診察が行われている。また、協力医療機関の医師による訪問診療を受け入れている。専門医療機関に家族と通院している方もおられる。	事業所では、利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。週3回の訪問診療や看護師による体調管理を実施している。協力医療機関が、重度化や緊急時には24時間対応するシステムを構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の運営している医療機関と24時間連携をとれる体制を築き、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して情報提供を行っている。また、入院中は、お見舞いに行ったり、家族や医療機関と連絡をとり、退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取りの指針の説明を行い、本人や家族へ終末期に関する事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者の心身の状態に応じて、本人や家族の意向を再確認するようにしている。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族に、重度化や終末期のあり方について説明を行い、意向を確認している。利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医や職員、看護師が連携し、尊厳ある穏やかな看取りに向けての取り組みに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し研修を行っている。また、同一法人の医療機関と24時間連絡できる体制をとっており、迅速に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いのもと 同一法人の医療機関と合同で避難訓練を行っている。ホームでは、緊急持ち出し袋を準備し、玄関や居室に設置している。定期的にホーム独自でも避難訓練を行っている。	事業所は、年2回の消防署立会の訓練の他、事業所独自の避難訓練を実施している。職員手作りの防災ずきんや持ち出し袋を準備している。しかし、災害時の詳細な話し合いや避難を円滑に行うための工夫をしたり、地域住民の協力を得るよう働きかけたりするまでには至っていない。	運営推進会議において、実践的な議論をされたい。また、地域の消防団や婦人会、近隣住民に訓練への参加を働きかけたり、地域の防災拠点となるための連携体制の構築を進めたりして、取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や個人情報の取り扱いに関する研修会に参加している。日頃の会話の中でも本人の気持ちを大切に、プライバシーを損ねないような言葉かけや対応を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者が自己決定しやすいようなケアに留意している。プライバシー確保に関する研修会を開催し、利用者への声かけや対応について、互いに日頃のケアを確認し、共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう声かけを行っている。意思表示が困難な方には、表情から読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人一人の心身状況に配慮した上で、思い思いに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの支援は、自己決定に基づいて行っている。介助が必要な方には、さりげなく手伝うようにしている。地域の理美容院の来訪もあるが、その人により得意先の美容院に行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人の運営している医療機関の管理栄養士の献立のもとに調理された食事を、ホームの職員が一人ひとりの状態に合わせた形態にして提供している。下膳など手伝っていただける方もおられる。	献立は、併設医療施設の管理栄養士が作成している。おやつや誕生会、季節のイベントの際には、手作りケーキや行事食を、事業所内で調理し、思い出に残る食事の機会となっている。利用者は、力量に応じて、下膳などの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養バランスを考慮して作成されている。職員は、食事摂取量、水分量を記録し、一人ひとりの状態を把握し、個々の身体状況に応じて、見守り、声かけ、介助など行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には、口腔体操を行っている。食後は、声かけにより、一人ひとりの状態に応じた口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェックを行い排泄パターンを把握している。職員は、さりげなく声掛けを行い、トイレへ誘導している。居室にもポータブルトイレを設置し使用している方もおられる。	職員は、利用者一人ひとりの排泄チェックシートを作成し、排泄パターンやサインの把握に努めている。誘導や介助の際は、さりげない声かけや配慮を行い、利用者一人ひとりの自尊心を損ねない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄や水分摂取量のチェックを行っている。日中は、リハビリ体操やレクリエーション、散歩等で適度に身体を動かす機会を設けたり、水分摂取の支援を行い、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ、ゆったりくつろいだ気分で楽しめるよう支援している。入浴が困難な方には、清拭や足浴を行い、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	事業所では、週2回の入浴日を定めている。利用者の希望を尊重し、羞恥心や不安感に配慮した入浴を支援している。入浴を拒む方にも、声かけを工夫したり、タイミングを変えたりして、入浴することができるよう努めている。利用者は、好みのソープやシャンプーを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調に配慮しながら外気浴やリハビリ体操、レクリエーションを行い、夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を把握し、個別のケースで保管している。飲み忘れや誤薬がないよう服薬確認を行っている。また、同一法人の医療機関と連携し、身体状況や症状の変化を報告し、医師や看護師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの身体の状態に合わせ、洗濯物をたたんでいただいたり、簡単なお手伝いをしていただいている。職員と一緒におやつ作りをしたり、レクリエーションでは、ゲームや合唱などを行い楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事で職員と一緒に外出を行ったり、その方の状態に応じて気分転換を図っている。一人ひとりが、その人らしい生活ができるよう支援している。	事業所では、利用者の希望に応じ、散歩や理・美容院の外出を支援している。弁当やおやつを持参しての花見や菊人形、オープンガーデンのお宅に出かけている。また、家族と外出支援のための協力体制を整え、利用者は、外食や買い物、外泊を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方は、家族が管理されている。家族が県外におられ、あまり帰省ができない方は、ホームでお金を預かり、帰省時には記録やレシートを見せ、残金、購入品などの報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じ、いつでも電話で話ができる様に支援をしている。持参の携帯電話から知人や家族に電話されている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、共有空間には季節に応じた壁飾りを行っている。季節感を味わい、心地よく過ごしていただけるよう支援している。	事業所内の、廊下やホールには、行事の写真や季節ごとの作品、花が飾られ、明るい空間となっている。レクリエーション時には、笑い声や歌声が聞こえ、利用者と職員が自然と集う居心地の良い場所となっている。空調管理に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好きな場所で、自由にくつろげるスペースを設けている。利用者一人ひとりが思い思いの場所で、過ごす事ができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでいただいております、居心地よく暮らす事ができるよう支援している。	居室の窓は、広く開放的で、景色や季節の移り変わりを眺めることができる。テレビや雑誌を持ち込んだり、家族と携帯で連絡を取ったりして、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に応じて、ベットやポータブルトイレを配置し、安全に移動ができ、自立した生活が送れるように支援している。		